

利根川・江戸川流域治水プロジェクト【最終とりまとめ】利根川下流区間

～我が国の社会経済活動の中枢を担う首都圏を抱える関東平野を守る抜本的な治水対策の推進～

- 令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、利根川・江戸川においても、事前防災対策を進める必要があることから、国管理区間においては、利根川本川の堤防が決壊し、流域で甚大な被害が発生した戦後最大の昭和22年9月カスリーン台風と同規模の洪水に対して資産の集中する首都圏中枢部での越水を防止し、流域における浸水被害の軽減を図る。

●氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

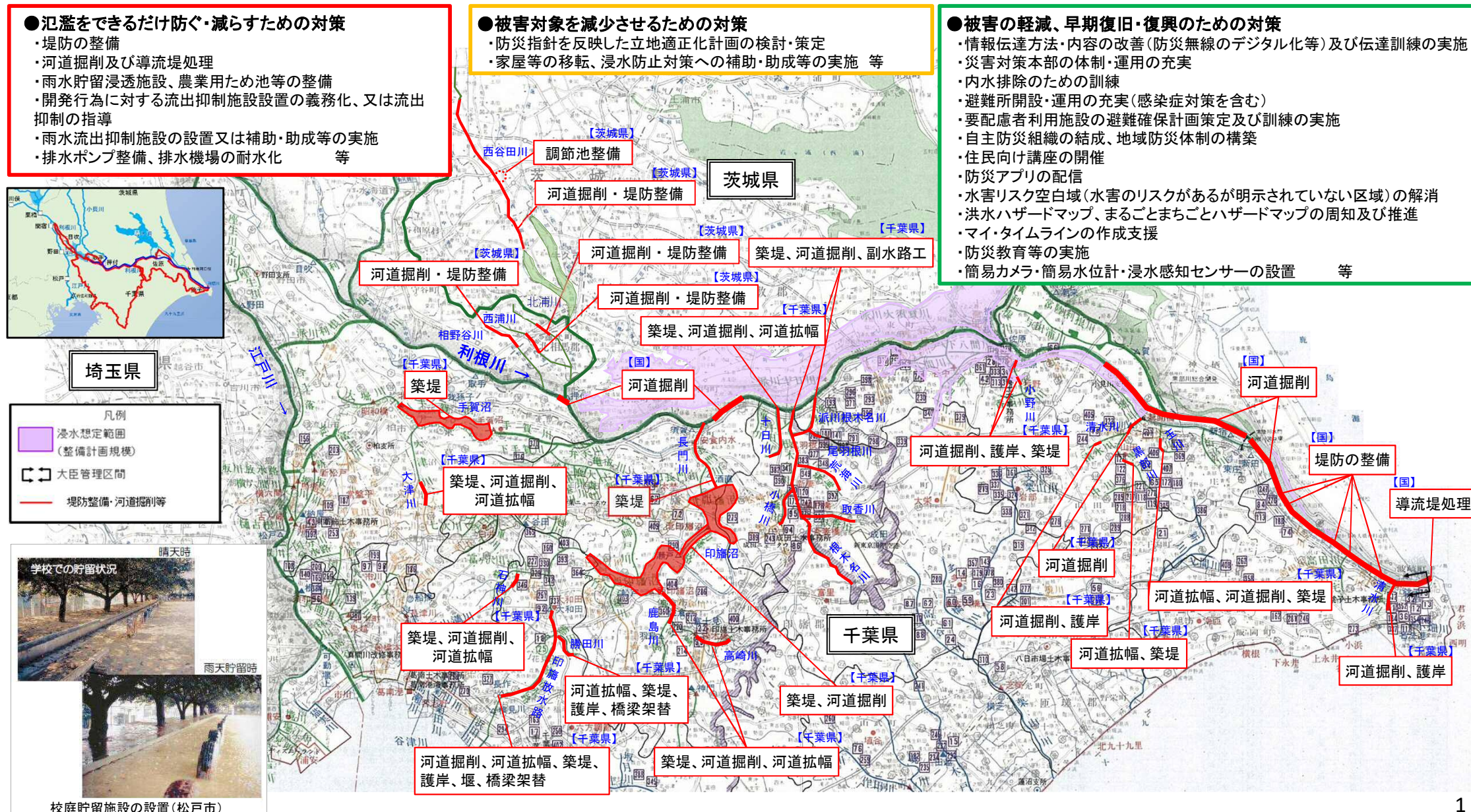
- ・堤防の整備
- ・河道掘削及び導流堤処理
- ・雨水貯留浸透施設、農業用ため池等の整備
- ・開発行為に対する流出抑制施設設置の義務化、又は流出抑制の指導
- ・雨水流出抑制施設の設置又は補助・助成等の実施
- ・排水ポンプ整備、排水機場の耐水化 等

●被害対象を減少させるための対策

- ・防災指針を反映した立地適正化計画の検討・策定
- ・家屋等の移転、浸水防止対策への補助・助成等の実施 等

●被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- ・情報伝達方法・内容の改善(防災無線のデジタル化等)及び伝達訓練の実施
- ・災害対策本部の体制・運用の充実
- ・内水排除のための訓練
- ・避難所開設・運用の充実(感染症対策を含む)
- ・要配慮者利用施設の避難確保計画策定及び訓練の実施
- ・自主防災組織の結成、地域防災体制の構築
- ・住民向け講座の開催
- ・防災アプリの配信
- ・水害リスク空白域(水害のリスクがあるが明示されていない区域)の解消
- ・洪水ハザードマップ、まるごとまちごとハザードマップの周知及び推進
- ・マイ・タイムラインの作成支援
- ・防災教育等の実施
- ・簡易カメラ・簡易水位計・浸水感知センサーの設置 等



利根川・江戸川流域治水プロジェクト【ロードマップ・効果】利根川下流区間

～我が国の社会経済活動の中枢を担う首都圏を抱える関東平野を守る抜本的な治水対策の推進～

- 利根川下流区間では、国、県、市町が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。
 - 【短期】 堤防整備、河道掘削等を行い、国においては押付防災ステーションを完成させる。
 - 【中期】 堤防整備、河道掘削等を引き続き推進しつつ、国においては無堤部の堤防整備を完成させる。
 - 【中長期】 堤防整備、河道掘削等を実施し、流域全体の治水安全度向上を図る。
- あわせて、流域の特徴を踏まえた流出抑制対策（調節池・校庭貯留、雨水貯留浸透施設等）、内水氾濫対策（排水ポンプの整備、排水機場の耐水化等）、土地利用や住まい方に関する対策（防災指針を反映した立地適正化計画の検討・策定等）の流域における対策を実施。
- 簡易水位計、簡易カメラの設置、防災無線のデジタル化、水害リスク空白域の解消、洪水ハザードマップ、避難確保計画等のソフト対策を実施。

区分	対策内容	実施主体	工程		
			短期	中期	中長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	堤防整備	国・県	無堤部の堤防整備		
	河道掘削等	国・県			
	流出抑制対策	県・市町	防災調節池・校庭貯留、雨水貯留浸透施設、農業用ため池		
	内水氾濫対策	国・市町	排水ポンプの整備、排水機場の耐水化		
被害対象を減少させるための対策	土地利用や住まい方に関する対策	市町	防災指針を反映した立地適正化計画の検討・策定、浸水防止対策の助成		
			水害リスク空白域の解消		
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	水災害リスク情報の充実	国・県・市町			
	避難体制等の強化	国・県・市町	洪水ハザードマップ、まるごとまちごとハザードマップ推進、避難確保計画の策定		
	情報通信の強化	国・県・市町	簡易水位計、簡易カメラの設置、防災無線のデジタル化		



現在

短期

中期

中長期



浸水被害解消

『堤防整備』

- 1. 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策
 - (1) 洪水氾濫対策
 - ① 堤防整備、ダム建設・再生等の加速化



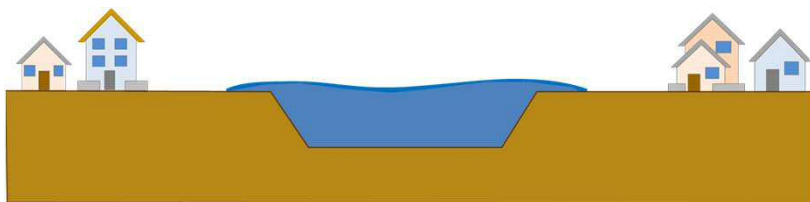
利根川の出水状況(令和元年10月台風19号)

■ 取組の概要

洪水による被害を防止、軽減するため、堤防が整備されていない区間や堤防の高さ又は幅が不足している区間について、築堤・かさ上げ等を行います。また支川や排水路の合流点には、逆流による氾濫を防止するための樋管を整備していきます。

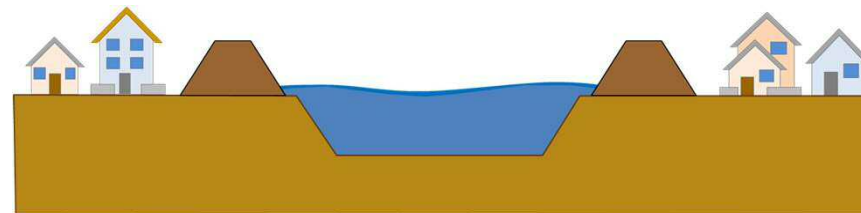
整備前

洪水により水位が上昇すると浸水被害が生じてしまいます。



整備後

堤防を整備して、洪水がおきても被害が発生しないようにします。



『河道掘削等』

1. 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

(1) 洪水氾濫対策

① 堤防整備、ダム建設・再生等の加速化



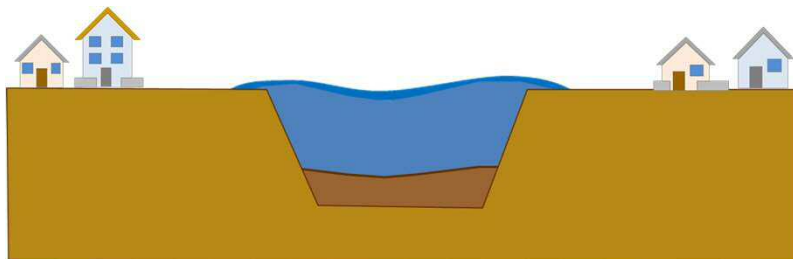
利根川の出水状況(令和元年10月台風19号)

■ 取組の概要

洪水を安全に流すため河道掘削を行い、洪水が流れる断面を大きくして水位を下げる対策を行っていきます。

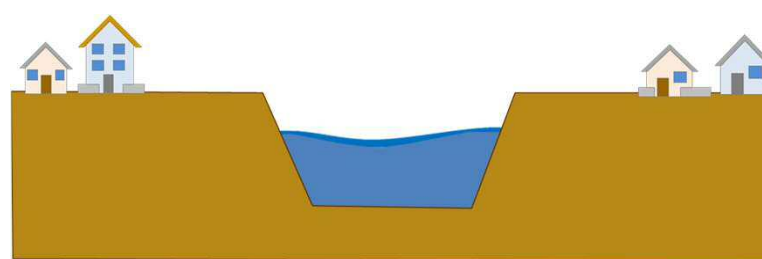
整備前

川底に土砂がたまって洪水が安全に流れない。



整備後

川底の土砂を取り除き、洪水を安全に流せるようにします。



利根川下流流域治水協議会構成員のうち、上記と類似・同様の取組を行っている機関

利根川下流河川事務所、茨城県、千葉県

■ 対策事例 【利根川下流流域治水プロジェクト:松戸市】 参考資料

『雨水貯留浸透施設等の整備』

1. 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

(1) 流域の雨水貯留機能の向上

① 流出抑制対策

■ 取組の概要

洪水時、下水道や河川への雨水流出量を抑制するため、一時的に流域内で雨水を貯留できるよう、雨水貯留浸透施設や調節池等の整備、農業用ため池などを活用した流出抑制対策を実施します。

雨水貯留浸透施設の設置状況(千葉県)

設置中



設置後



利根川下流流域治水協議会構成員のうち、上記と類似・同様の取組を行っている機関

取手市、牛久市、つくば市、千葉県、千葉市、銚子市、船橋市、成田市、佐倉市、八千代市、鎌ヶ谷市、八街市

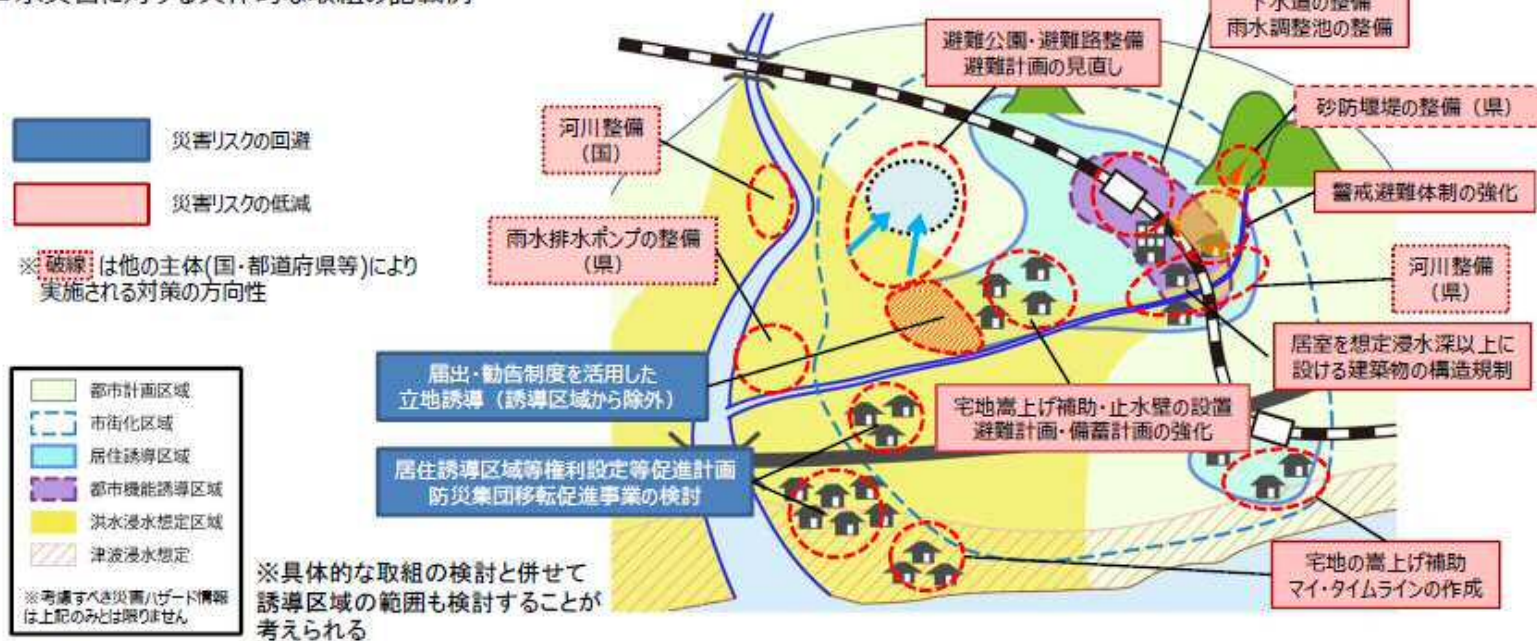
■ 対策事例 【利根川下流流域治水プロジェクト:市町】 参考資料

『防災指針を反映した立地適正化計画の検討・策定』

2.被害対象を減少させるための対策

(1)水災害ハザードエリアにおける土地利用・住まい方の工夫

■ 水災害に対する具体的な取組の記載例



取組イメージ

出典:立地適正化計画作成の手引き(国土交通省、令和2年12月改定)

■ 取組の概要

頻発・激甚化する自然災害に対応するため、災害ハザードエリアにおける開発抑制、移転の促進、立地適正化計画と防災との連携強化など、安全なまちづくりのための総合的な対策を講じることが喫緊の課題となっています。

このため、防災指針を反映した立地適正化計画の検討・策定を推進します。

利根川下流流域治水協議会構成員のうち、上記と類似・同様の取組を行っている機関

神栖市、千葉市、銚子市、船橋市、松戸市、成田市、佐倉市、柏市、酒々井町、栄町

■ 対策事例 【利根川下流流域治水プロジェクト:取手市】 参考資料

『洪水ハザードマップの推進』

3.被害の軽減、早期復旧・復興のための充実

(1)避難体制等の強化

①ハザードマップやマイ・タイムライン等の策定



■ 対策の概要

洪水の際に、迅速かつ安全な避難の為に備えた洪水ハザードマップについて、情報の更新を進めるとともに、住民等に対して出前講座等を開催するなど、水害リスクに対する理解の促進に向けた周知・普及活動を進めていきます。

利根川下流流域治水協議会構成員のうち、上記と類似・同様の取組を行っている機関

龍ヶ崎市、取手市、つくば市、稲敷市、神栖市、河内町、利根町、千葉市、銚子市、船橋市、松戸市、成田市、佐倉市、旭市、柏市、八千代市、我孫子市、鎌ヶ谷市、白井市、香取市、酒々井町、栄町、神崎町、東庄町

■対策事例 【利根川下流流域治水プロジェクト:河内町】 参考資料

『まるごとまちごとハザードマップの推進』

3.被害の軽減、早期復旧・復興のための充実

(1)避難体制等の強化

①ハザードマップやマイ・タイムライン等の策定



公共施設(10ヶ所) → 20ヶ所



電柱(10ヶ所) → 40カ所

■対策の概要

日常から水災害意識の向上を図り、迅速な避難を実現するため、まるごとまちごとハザードマップの検討、整備や表示板等の整備を推進します。

利根川下流流域治水協議会構成員のうち、上記と類似・同様の取組を行っている機関

龍ヶ崎市、取手市、稲敷市、神栖市、銚子市、船橋市、成田市、佐倉市、柏市、八千代市、我孫子市、白井市、香取市、酒々井町、栄町、神崎町、東庄町